

姿勢の防災教育を通じた災害文化の形成を目指して

～防災教育推進連絡協議会の活用～

群馬大学大学院理工学府 広域首都圏防災研究センター
片田敏孝・金井昌信

背景

東日本大震災後の防災教育の現状¹⁾

- ・避難訓練の実施回数の増加
⇒限定的な状況下における画一化された対応行動の刷り込み
- ・防災に関する授業の増加
⇒様々な機関が、授業案や授業計画、授業の手引きを作成
⇒防災に関する知識の植え付け
- ・担当教員主体の実施体制
⇒異動などにより継続な実施に課題

参考文献

1) 金井昌信・片田敏孝：東日本大震災以後の学校防災教育の実施状況とその実施効果に関する実態調査，災害情報学会誌，No.13，pp.110-118，2015.

問題意識

防災教育の目的

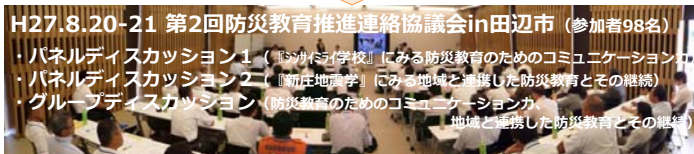
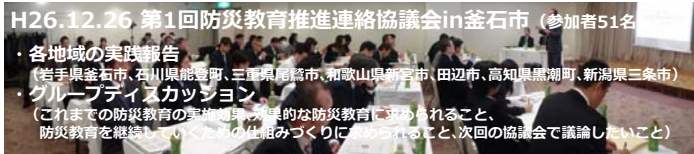
『災害から生き抜く力を育む』ために、
これで本当に十分なのか？

『自ら判断し行動することのできる子どもを育む』
ためには、防災教育はどうあるべきか？

実践を通じて得られた知見【実践知】を活用し、
【暗黙知】を【形式知】へと変換し、
効果的な防災教育に関する知恵を共有することを目指す

文部科学省 リスクコミュニケーションのモデル形成事業 『姿勢の防災教育を通じた災害文化の形成』

「防災教育とはどうあるべきか？」を議論し、実践を推進することを目的に、すでに防災教育に関する独自の取組を実践している地域の教職員に参加を呼びかけ、防災教育推進連絡協議会を立ち上げ、年に1～2回情報交換する場を設ける。そこでの議論を通じて、小中学校における防災教育を推進し、それを継続する仕組みを構築することにより、地域の災害文化の形成およびその定着を図る。



防災教育先進校にみる様々な教育効果

田辺市立新庄中学校

- ・平成13年度より開始、1年『地域学習』、2年『学年劇』、3年『新庄地震学』を設定し、全校生徒が参加
- ・教科と関連した防災学習、楽しんで取り組める防災学習、「誰かの役に立っている」と感じる防災学習、地域と連携した防災学習、自分たちの取組を発信・交流する場をつくる、他者から評価される機会を得る
- ・生徒の主体的な活動、コミュニケーション力の向上

徳島市立津田中学校

- ・平成17年度より開始、2、3年生の総合的な学習の時間に『防災講座』を設定し、希望生徒が選択
- ・3年目に生徒の発言「学校だけでなく、地域にでよう」をきっかけに地域にでていく活動を開始
- ・共助に重点をおいた活動（繋がる活動、地域に貢献する活動、被災地に貢献する活動、自ら体験する活動）
- ・リーダー育成、キャリア教育としての教育効果

釜石市立釜石東中学校

- ・平成21年度より開始、それまで実施していた生徒会主体のボランティア活動に防災を取り入れる
- ・『EAST-レスキュー』自分の命は自分で守る、助けられる人から助ける人へ、防災文化の継承
- ・生徒発案で自分たちができることを実践、縦割り班で体験学習
- ・他者を思いやる心、東日本大震災時の対応

能登町立小木中学校

- ・平成23年度より開始、『つなぐ』プロジェクト、人格形成や主体性を育む防災教育の実践
- ・「犠牲者を一人もださない地域づくり」のために何が出来るかを考え実践
- ・地区全体の避難訓練の実施に向けて、様々な活動を展開し、地域に自主防災組織の結成を促した
- ・自己有用感、自己肯定感の行動⇒いじめがなくなる、コミュニケーション力の向上、学力向上

高崎市立潮江中学校

- ・平成23年度より開始、『地域貢献型防災教育』の実践
- ・「学校の環境を良くしたい」「正義の通る学校にしたい」、そのため防災教育を手段として利用
- ・様々な機関と連携した実践
- ・生徒指導面での改善

効果的な防災教育の実現に向けて

■防災教育の実施効果の見直し

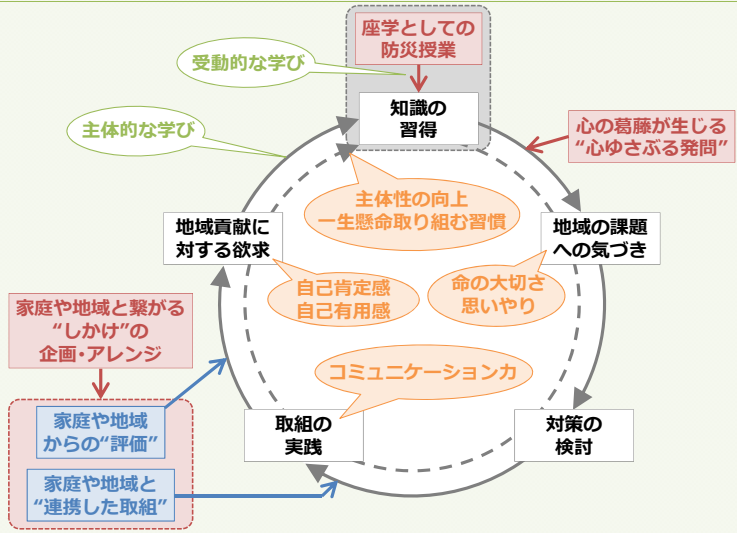
- ・狭義の効果（防災に関する知識やスキルの習得など）の見直し
- ・コミュニケーション力の向上、命を大切にできる心、地域を愛する心の育成
- ・『自ら判断し、主体的に行動することのできる子どもを育む』
⇒学校教育の目標（人づくり）に通じるため、様々な教育機会を活用
⇒その教育効果は、コミュニケーション力の向上、命を大切にできる心、地域を愛する心の育成など、様々な成果も期待できる

■効果的な防災教育をおこなう上で求められるコミュニケーションカ

- ・画一化された対応行動の刷り込みからの脱却
⇒「災害時の対応に正解はない」ことへの理解
⇒様々な状況を想定した対応を検討する
⇒心の葛藤が生じる“心ゆさぶる発問”
- ・“知識として知っているだけ”から“内発的な動機”の醸成
⇒災害に対する我がごと感、リアリティを持たせる
⇒家族や地域など他者への思いを喚起（正常化の偏見からの脱却）
⇒家族や地域との連携

■“授業案の検討”から“授業計画の立案”へ

- ・“防災教育として、何をどのように教えるのか”から、
“防災を通じて、どのような学びの場を提供するのか”への視点の転換



今後の課題 ⇒“継続的な取組”